

船舶事故等調査報告書

平成26年8月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014那第9号
事故等種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成25年12月21日 11時45分ごろ
発生場所	鹿児島県 <sup>わどまり</sup> 和泊町和泊港 和泊港導灯（後灯）から真方位094°500m付近 （概位 北緯27°23.8′ 東経128°39.9′）
事故等調査の経過	平成26年2月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨客船兼自動車渡船 フェリーあけぼの、8,083トン 140737、マルエーフェリー株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
乗組員等に関する情報	船長、一級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷船尾ランプドアの先端部に擦過傷 岸壁 車止めが破損
事故等の経過	本船は、船長ほか28人が乗り組み、沖永良部島の和泊港岸壁に入り船右舷着けで着岸し、船首から4本及び船尾から4本の合計8本の係留索で係留中、うねりで動揺し、船首係留索の1本が破断して船体の上下運動が起こり、平成25年12月21日11時45分ごろ右舷船尾ランプドア先端部が岸壁の車止めに接触した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風速 約7m/s、視界 良好 海象：波高 約50cm
その他の事項	九州沿岸水路誌には、和泊港は、港口が東方へ開いているため、北～西寄りの風のときでも強吹するときは、うねりが回り込んで入り、岸壁付近における潮流は極めて強いので、風浪やうねりが一緒になれば、係留索を切断することもある旨が記載されている。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし なし あり 本船は、和泊港に係留中、うねりで動揺し、船首係留索の1本が破断して船体の上下運動が起こったことから、右舷船尾ランプドア先端部が岸壁の車止めに接触し、これらを損傷したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、和泊港に係留中、うねりで動揺し、船首係留索の1本が破断して船体の上下運動が起こったため、右舷船尾ランプド

	<p>ア先端部が岸壁の車止めに接触したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・係留する際には、係留索を増し取りするなどにより、うねり等の影響を考慮した係留措置を採ること。</li></ul>